

第1回 アドバンスステージ研修

令和6年6月24日(月)

講演 「対話を通じた保育の理解と共感」

講師 奈良教育大学 教授 廣瀬 聡弥氏

1. 講演

(5月初旬副園長対象アンケートより)

- ・保育について職員と語り合えるよう、保育を見るようにしているが、そこから職員の指導となると難しさを感じる。
- ・いろいろな雇用形態の職員がいるなか、意見を聞きつつまとめ、リーダーシップをとる難しさに悩む。

(幼児教育アドバイザーの話し合いの中で)

- ・多様な考えを持つ保育者同士を繋ぎ、保育実践に還元していくことが難しい。
- ・一人一人の強みを活かせるような指導ができればいいが難しい。
- ・副園長という肩書にしばられ過ぎて、保育の楽しさを忘れてしまいそうだ。

○園のリーダー（副園長）として

これまで…子ども対象：教育保育の実践（→子どもの保育のプロ）

現在…保育者対象：指導、組織としての運営

↓ 対象の違い→大人への教育の効果を過信しない

教育・保育を通して子どもを理解し、どのように育てたいか（目標）について共有する

↓

様々な経路（個性）を許容し、
援助する仕組みを考える

★職員と目標を共有することが大切。
育てたい目標へのアプローチはいろいろな方法、様々なものであって良い！
⇒子ども同様、大人の多様性への理解

○保育者の質について

保育者の質を高めるためには…（保育所保育指針（平成29年3月）第5章 職員の資質向上より）

- ・職員の個人の努力（自己研鑽）⇒ 園全体としての取り組み
- ・施設長（園長・副園長・ミドルリーダー）の役割の強調
- ・園内外の研修参加



良い保育者とは？（Mentimeterにてリアルタイムに参加者の意見を集計）

子ども一人一人に寄り添える保育者

ありのままの子どもの姿を大切に保育する人、想像力がある

子どもに寄り添い共感できる、どんな時も子どもの心に寄り添える人

子ども主体で一人一人の発達を理解し、寄り添う保育ができる

子どもの気持ちに立って関われる、子どもを理解する

同じ目線に立てる、子どもの気持ちを受け止めることができる

子ども一人一人の個性を大事にできる、子どもが楽しく居心地の良いクラスをつくる

柔軟な物事の捉えができる、子ども一人一人を理解し自らも楽しみながら保育できる人 …など

発達理解
共感性
寄り添い

○エキスパートの認知（専門職がどう育っていくのか）

経験によるルーチン（自動的に扱える技術）の獲得（ex）保育の視点 ⇒効率的な実践

…しかし、エキスパートへの努力は必要！！

↓ エクスパートのパフォーマンス≠日常スキル

↓ エクスパートの獲得過程は日常スキルが自動的に獲得されていく（自動化）その抵抗の

↓ 上に熟達した実践として身についていくものである。

エキスパートになるために…

教師は多様で複雑な保育の中で実践している。
子どもに既存のルーチンが適さない時、それを
転換する必要性が生じ、自身の信念や思考、
枠組みを問い直す**省察** (reflection) が求められる。

日々の子どもの関わりや実践、他の保育観察など、様々な文化の中で保育者としてどうあるべきかを模索し、省察を繰り返すことが力量形成の上で重要 (保育後、保育中の**省察**)

○感情を共有し学び合うために

媒体の種類や共有方法の大切さ ※**三項関係**…人と人が一緒にものやテーマを共有すること
⇒園内、園外研修等において、学びを支えるもの

- ・記録や対話の重要性
- ・意見が言える仕組み
- +
- ・同じテーマで繰り返し話すことが重要
- ・言葉による表出はなくとも同調、感じていること (学び) があるという視点



○今後リーダーに求められること

- ・(職員との) 関係性の構築
- ・園として育てたい子どもの姿の共通認識、インフォーマルなコミュニケーション
- ・サーバント・リーダーシップ…支援、目標達成に導くリーダーシップ → 援助的役割
- ・エビデンス…実践者の研究的視点

2. グループ協議 (6グループ)

協議テーマ ①人材育成について困っていること ②指導を行う上で自分が大事にしていること

(グループ報告より)

○人材育成について困っていること

- ・業務分担の難しさ、職員構成・規模の違いにおける難しさ、園内での連携・協力体制、職員間での交流・共有の難しさ
- ・関係づくりの言葉選びやタイミングの難しさ、経験年数や保育観の違いへの関わり方・対応方法、対話の仕方や伝え方の難しさ
- ・リーダーの育成、職員間での人材育成への意識の違い
- ・立場における言葉の重み (伝えること)、助言への迷いや不安、自らの力量への不安、時代の変化への対応

○指導を行う上で自分が大事にしていること

- ・認める、頑張りを認める、褒める、一緒に考える (指導<援助)、子どもの視点で一緒に考える、話を聞く (対話)、寄り添う
- ・助言は一般論的に伝える、指導内容に応じた場所やタイミング、スモールステップで言語化する、職員の思いを大切にしながらの助言
- ・職員との関係づくり (信頼関係)、職員の姿の把握、個々に応じた伝え方への配慮、職員の良いところに目を向ける、受け入れる姿勢 (思い、大事にしていること)、経験年数や役割を活かした指導体制
- ・過去の経験を活かす、上司との共有

3. 総評 (廣瀬聡弥氏)

繰り返しの関わりである関係性の中で…

- ・互いに話し合いができる関係性をどう作るか (コミュニケーション)
- ・相手の言い分や思いをどう理解するか (傾聴の姿勢)



★お互いの良いところを認めていくことが大切

★互いに気持ちの良い職場関係、職場づくりを!!

★副園長という同じ立場 (横のつながり) の中でコミュニケーションを取り、アイデアを出し合う。
園を跨いだつながりの中で、ともに考えていく!!

作成者 幼児教育アドバイザー 寺町 歩